

表発表画計最終の建再チッソ

合板会社など新設

余剰人員は極力吸収

チッソは水俣工場再建計画の最後の計画ともみられる合板会社、チェーン会社などの新規事業を水俣市で起こすと二十三日下午水俣支社で発表した。これで来年三月末で水俣工場を現在の千五百七十九人から九百三十人とし、過剰人員は新工場に吸収することになっている。しかし新規事業は、立地条件などからチッソと同様の労働条件を適用することは困難だとしている点や、現在の予想では新規事業が実働にはいるのは来年九月ごろで、三月末からの約半年間の従業員は処遇などの点が今後に残された問題としてあげられている。

実働までに半年の空白

水俣工場の再建計画は五カ年計画として四十二年夏に発表されて以来、昨年夏あたりから具体的実施に入った。そのうち柱になっているのは塩化ビニールの原料転換とこれに伴う余剰電力の用途転換の二つ。塩化ビニールはすでに新しい工場で約三十億円の工費で建設中で、来年四月から商業生産にはいる。電力はシリコン製造向けに回すつとあり、この二つの合理化も順調に進んでいる。しかし新工場建設により、従業員数は極端に少なくなっており、塩化工場が動き出す来年三月末の時点で過剰人員が出て来る。

計画では、現在千五百七十九人のうち今後の他事業所への配転などを差し引くと来年三月で千二百八十人となる。しかしその時点で水俣工場が必要とする人員は九百三十人とされ、約三百五十人の過剰人員が出ることになる。この過剰人員のため新規事業の開発を急いでいたが、他企業との合併会社として合板事業、各種チェーン事業、外国会社との提携による樹脂の加工事業、水俣工場独自では可塑剤、農薬の中間原料などを計画し、近く実現させる。投資総額は約十五億円と見込んでいる。

これらの新規事業で過剰人員を吸収することになっているが、これらの新規事業は現在のチッソの労働条件では、事業継続が困難な業種になっている。①新規事業の実働は来年九月と予想され、約半年間の空白がある。②などの難点をあげている。また来年三月末の過剰人員三百五十人に対し、新規事業の吸収予定は二百五十人程度と見込んでおり、これらも今後の課題だと会社側も指摘している。

会社としては三月末、いったん希望退職の取り扱いをし、その後再採用したい意向で、久山常務らは「水俣工場の存続の立場に立

ち、将来地域からの若年労働者を採用する道を開いておくためにも労組に協力を求めたい」と語っている。

チッソ新労、新日経労組の両労組にも二十三発表し、協力を求めており、両労組とも検討している。